兵庫県こころのケアセンター　令和２年度実施分に係る
外部評価委員会　業績評価（総合評価）

所　　見
・当センターは、トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する多様な機能を持つ拠点施設として、平成16年４月に全国に先駆けて設置され17年が経過した。 ・コロナ禍で、さまざまな制約があるなか、感染対策を徹底しつつ、事業規模の縮小やオンラインでの実施など工夫を凝らしながら事業を継続し、「こころのケア」の拠点施設として、トラウマ・PTSDに関する研究、研修、情報発信、連携・交流、相談・診療の５つの機能を十分に発揮している。新型コロナウイルス感染症の影響により一部の研修や講座などを中止したことから、年間目標を達することができなかった事業があったものの、いずれの側面においても、計画的、効果的、効率的に実施されてきており、高く評価できる。 ・個々の事業評価については「個別事業評価」に記載のとおりであるが、相談事業について、地域の医療機関や相談機関との連携が進み、トラウマ・PTSDについての専門性が発揮され、地域における役割が明確になっている。土曜日に開庁していることの意義も大きく、学生、勤労者の相談件数が増加していることは、評価に値する。 ・附属診療所においても、受診者数が 3,153 件と年間目標 2,700 件を大きく超えており、センターの特色が認知され、複雑で困難なトラウマ・PTSD 関連疾患への専門的診療機関としての効果が果たされている。 ・また、東日本大震災や熊本地震の被災地への支援を継続するとともに、令和 2 年度は、感染症危機対応にかかるコンサルテーション等も実施している。加えて、災害派遣精神医療チーム(DPAT)について、関西地域における連携、研修会の実施など、支援体制の確立につながっている。 ・県委託研究、競争的資金による研究では、当センターの特徴を生かす研究が進められており、外部資金の獲得状況からも当センターの研究員が実践面・研究面で高く評価されていることがわかる。 ・こころのケアシンポジウムでは、子どものトラウマ・虐待というタイムリーでニーズの高いテーマを選択して実施しており、参加者からのアンケートで評価が高いのは納得できる。 ・安定的な運営ができていることは、スタッフの献身的な活動の成果ではあるが、土曜日の診療件数が昨年度比 20％増加していることや、相談件数が大きく目標値を超えていることなどから、その対応にはマンパワーの充実が喫緊の課題と考える。また、働き方改革、ワーク・ライフバランスが進められるなか、残業時間や年休消化などの把握・検討も求められる。スタッフの心身の健康の悪化が危惧されるなか、現行の理念・方向性を継続し、活動を続けるためには、兵庫県による、より一層の財政的支援、人的支援・人材育成支援等を要請したい。 ・収束の目途が立たないコロナ禍において、中止となった事業についても、感染対策を進める中での実施可能性について検討されることを期待している。ホームページの改訂も、情報発信力の強化につながるものであり、専門的な活動について、一般的なわかりやすい広報をすることに是非つなげていただきたい。